

有害害獣？の過去・現在・未来！

1) 奄美大島マングース防除事業

ずいぶん前ですが、沖縄に行くと「ハブとマングースの戦い」というショーがありました。このマングースは南アジアに広く生息する哺乳類ですが、1910年にハブなどの駆除が目的で現在のバングラデシュから沖縄島に導入され、奄美大島には1979年に数十頭が放たれ、ハブを駆除することなく、数を増やしていきました。ピーク時には1万頭までになり、アマミノクロウサギなど奄美大島に生息する多くの層物を捕食することになりました。

そこで、環境省は2000年に奄美大島で本格的マングース駆除に着手し、2005年からは「奄美大島からのマングースの完全排除」を目標に、外来生物法に基づく防除事業を進めています。

その後マングースバスターズの活動もあり2019年（令和元年）には捕獲数0頭になり、現在継続しています。



2) 宮古島のインドクジャク

数年前宮古島に行って驚いたことがありました。散策しているとやぶから突然クジャクが！え、ここ、動物園じゃないのに・・・

実は宮古島では、クジャクが野生化して増えているのです。種類としてはインドクジャクで雑食のため、畑の作物が荒らされる被害が出ていて、以前は罟猟で駆除していたのですが追いつかず、今は猟友会による積極的駆除を行っているとのこと。

2023年度の駆除数は900～1000羽を超え過去最高となる見通しです。

また伊良部島では根絶達成が目の前に来ており、飼育している方にはくれぐれも逃がさないようお願いしているそうです。なんと、飼育されている方もおられるのですね！！

他の地域でも「有害害獣」と指定されている生き物たちがいるわけですが、最初は人間の生活に役立てるために持ち込まれ、その結果が芳しくなかったり、十分な管理ができず逃げ出して野生化したり、勝手な理由で捨てられたりした結果が多いですね。

もちろん、ヒアリのように貿易による物資の輸出入で日本国内に入り込むものもありますが、それも人間の生活に起因しています。

そうそう、クローバー（しろつめくさ）も外来種ですね。輸送時のクッションに使われて日本に入ってきたそうです。もうすっかり日本の草、という顔をしています。

たぶん、毒などがなく、生態系を大きく変化させることなく、人間の生活にとって有害な影響が発生しなければ、駆除対象にはならないのでしょうね。

京都水族館で主役のオオサンショウオも、食用に輸入されたチュウゴクサンショウオ（寿命50年）かその交雑種が増え、日本固有種を天然記念物に指定しないと守り切れない状況になっているそうです。因みに、チュウゴクサンショウオは中国では絶命したとも言われています。

全ての生き物とは無理かもしれませんが、何らかの形で共存できる世界になることを願いたいものです。